

# 青い眼の琉球往来

—ペリー以前とペリー以後—

緒方 修著 四六判ソフトカバー244頁 本体 2,200円 ISBN978-4-8295-0721-6

琉球は、唐の世から、ヤマト世、アメリカ世、そして再びヤマト世と荒波にさらされてきた明治の初めに王国がなくなるまでの琉球の姿を、バジル・ホール、クリフォード、フォルカード、そしてペリーら“青い眼”の人々の航海記、遠征記などの記録から読み解く

★★さまざまなエピソードで綴る歴史紀行エッセイ★★



琉球の墳墓  
(ペリー遠征記)



石垣島の唐人墓



琉球の撮影



ペリーサイダー  
(横須賀ペリー記念館)



ペリー上陸記念碑  
(那覇)

那覇山下町の「ペリーもち屋」



中城城跡  
(ペリー遠征記)



**著者 緒方 修** (おがた おさむ)  
1946年生。中央大学卒、文化放送記者・プロデューサーを経て1999年より沖縄大学教授。早稲田大学オープン教育センター講師など。現在、東アジア共同体研究所琉球・沖縄センター長、NPOアジアクラブ理事長ほか。著書『シルクロードの未知国—トルクメニスタン最新事情』(芙蓉書房出版)、『客家見聞録』(現代書館)、『沖縄野菜健康法』(実業の日本社)、『燦々オキナワ』(現代書館)、『歩きはじめた沖縄』(花伝社)など。

## 序章 青い眼が記録した琉球

平和で美しい楽園? / 青い眼の琉球に対する見方は一様ではない / 大地獄の世界? / 琉球滞在記を読み解く / 200年前の世界

### 第1部 ペリー以前 平和な愛しき島

#### 第1章 バジル・ホールの航海記

さらば愛しき島よ、民よ / 非友好交流 / 好意的な人々 / ウチナンチュの心 / ナポレオンとの会見

#### 第2章 クリフォードの訪琉日記

英国海軍からリストラされたクリフォード / 「女が見えたぞ！」

#### 第3章 フォルカード神父の琉球日記

1840年代とはどんな時代だったのか / 若き宣教師フォルカード / 琉球側の偽装作戦 / 十字架発見! / 社会不安が続くフランス / 信徒発見? / もうひとりの宣教師ベッテルハイム / フランスの狙い / 屋我地島のオランダ墓 / 那覇・泊港のオランダ墓に葬られたのは仏人宣教師? / 花びらのような十字架の謎

#### 第4章 マルタ騎士団の来琉?

三大騎士団 / アマルフィの商人たち / 世界遺産の「騎士の城」 / 領土なき「国家」 / 裕福な海賊たち / ロードス島攻防記 / 城壁上に立つ600人の騎士たち

#### 第5章 長期滞在が引き起こしたベッテルハイム問題

はた迷惑な眼鏡先生 / 「鎖国日本、暗黒の帝国へと攻め上る」 / 拝み倒す琉球の役人たち / 「琉球は独立国ではない」

#### 第6章 石垣島唐人墓事件

犠牲になった多数の唐人 / どんな事件だったのか / 中国人民の正義の闘争の初歩的な勝利? / 入り乱れる「国益」

### 第7章 琉球を訪れた宣教師たち

沖縄に根づいた祖先崇拜、自然崇拜 / 黎明期の琉球宣教のエピソード

### 第2部 ペリー以後 恫喝におびえる島

#### 第8章 ペリーは、なぜ日本に来たのか?

次々と押し寄せる異国船 / 琉球が陥った経済破綻 / ペリーから娘への手紙 / 決闘が生んだ愛 / ペリーに決まるまで / 捕鯨船員の嘘で世論が変わった / 分かっていたペリー来航 / 横井小楠の手紙 / パナマ運河による東アジア政治・経済へのインパクト / コロンブスの志 / アメリカ合衆国の海軍 / ペリーが学んだ東洋人との付き合い方 / クリミア戦争の影響 / ペリーの沖縄海軍基地構想

#### 第9章 ペリー提督の日本遠征記

東廻りの航路で琉球へ / 琉球各地を調査したペリー / 三つのペリー上陸記念碑 / 久里浜・伊豆下田・那覇市泊北岸 / 仕事をしない男たち / 琉球王国との永久協定のための提案

#### 第10章 琉球王国の崩壊

ペリー艦隊殺人事件 / 強制された琉・米条約 / 首里城明け渡し / 波瀾万丈劇に幕 / 涙で送られる国王

#### 第11章 宮古島で座礁したドイツ商船

宮古島の「博愛美談」 / ドイツ商船ロベルト号座礁 / 皇帝ヴィルヘルム一世からの指示 / 「博愛美談」再び、三度復活

10月上旬 新刊搬入予定です

配本部数申込締切は 9月20日(水) です

FAX 03-3813-4615

芙蓉書房出版

〒113-0033  
東京都文京区本郷3-3-13  
http://www.fuyoshobo.co.jp  
TEL. 03-3813-4466  
FAX. 03-3813-4615

発行 芙蓉書房出版	注文数	注文者
青い眼の琉球往来		
10月新刊 本体 2,200円	部	